

作成（2024 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	三河翔馬
所属機関名	獣医学部獣医学科
職位	講師
在籍年	7

教育の責任

獣医学科の専門教育において、獣医臨床分野の教育を担当している。
国家試験の出題範囲の科目もあり、獣医師免許取得のため、責任を負って担当している。
またゼミ所属学生の卒業論文研究の指導を通して、物事の考え方や問題解決の方法を身に付けられるように指導に当たっている。
また看護学科の専門教育においても、臨床現場で求められる知識や愛玩動物看護師の国家試験の出題範囲について、責任を負って担当している。

【主な担当科目名】 獣医消化器病学、小動物内科実習、卒業論文、動物臨床看護学各論 A

教育の理念

大学教育とは、学生が自ら真理を追い求めるものであり、大学教員はその道筋を立てたり、手伝えることがその使命と考えている。そのため学生自らが主体的に学ぶ姿勢を身に付けることが重要だと考えており、知識を与えられるのを待つだけのような受動的な構造にならないことが大切だと考えている。ただし獣医学科は最終的には国家試験があり、資格取得を目指さなければならない学科であることから、全てを学生主体にすることも限界があるとも考えている。主体的な学習および能動的な学習その絶妙なバランスが獣医学教育にとって重要な要素と考えているが、学生にはなるべく主体的に学習しようという意識を持ってもらいたいと思っている。その姿勢が社会に出て獣医師になった時に必ずや役に立つと考えている。

教育の方法・方針

講義はパワーポイントを用いて行っているが、Mylog 上に授業資料をアップロードする際に、コース管理の機能を用い、講義前確認テスト、授業資料、講義後確認テスト、授業アンケート & 質問コーナーを毎講義で作成している。その際は講義前確認テストを行わないと、授業資料をダウンロードできないようにしている。このテストは成績評価には反映せず、今回の講義でどこが重要かを事前に示すことを目的としており、事前学習および講義の際に、講義前確認テストの内容を思い出し紐づけさせることで、メリハリを持って主体的に講義を受講できる工夫をしている。また講義後確認テストは講義前確認テストと全く同じ内容の試験を実施しており、講義の内容が身についたかどうかを確認できるようにしている。

またパワーポイントの作成時にはフォントや字体に留意し、また単調すぎるまたは複雑すぎるデザインは避けて、飽きない講義づくりを意識している。各論では様々な疾患を学ぶ必要があるため、講義ごとに学ぶ疾患を目次として提示し、項目が変わるごとに目次を表示させ、全体

のうち今からどこを学ぶのかを提示させることで、メリハリを持たせるようにしている。学ぶべき項目をリストアップすると、全体を把握することができ、学ぶべきことが膨大すぎて途方に暮れてしまうような学生を減らし、講義後の復習時に勉強へのモチベーションが上がると考えている。

また本当に重要な部分には赤字や下線などを用いるが、その部分しか聞かなかったり、覚えなない学生がいるため敢えてあまり用いないようにしている。疾患の説明は、なるべく論理的に考えられるように、生理学や解剖学など基礎的な内容を復習としており混ぜながら説明するようにし、基礎的な科目と関連付けて学ばせることで理解量を上げるようにしている。

初回講義時にはアイスブレイキングとしてグループワークをさせ、科目に関連した知識のうちこれまでに学んできたことをお互いにアウトプットさせ、これからの講義に対するモチベーションを上げるような取り組みも実施している。

講義後は Mylog 上のクリッカー機能を用いて授業アンケートと質問コーナーを作り、講義後に入力できるようにしており、講義へのフィードバックや対面での質問が苦手な学生へも対応できるようにしており、またその質問に対してはクラス全体へのフィードバックを行うように心がけている。講義中はなかなか双方向な授業を行う時間がない分、これらのツールを用いることで双方向な学習が行えるように心がけている。

教育の成果

毎講義の終了後に Mylog 上で行っている授業アンケートに回答があった学生からは、7~9 割以上の学生から「大変理解しやすかった」「理解しやすかった」という回答が得られている。また授業に対するコメント欄では、「講義前と講義後の理解テストを行うことで、講義に対する理解がより深まり、復習でも理解が早かったように感じた。」「初めに、形態学についての解説をしていただいたことで理解がしやすかったです。」「最初にまとめがあり頭の中を整理しやすかったです。」「写真やイラストが多くて分かりやすかった。」というようなコメントもあり、教育の方針に適った成果を得られている。

今後の目標

現在の方法は比較的學生からの評価も高いので、これをベースに講義の改善を行っていきたいと考えている。具体的に、担当科目の学習内容は国家試験の出題範囲ということもあり、扱わなければならない情報が多く、一方向的になってしまったり、能動的になってしまいがちな点も多い。なるべくアクティブラーニングを用いて、學生に主体的に学ばせるような講義を展開できるように、講義の内容や方法をブラッシュアップしていきたい。

根拠資料

- ・ 獣医消化器病学授業スライド
- ・ 2024 年度獣医消化器病学 Mylog 上講義後授業アンケート